

Jim bought these records.

(3) 強勢のある音節は大きく長めに発音する。

"Stress is loudness. The stressed syllables are spoken more loudly than the unstressed syllables. Stress is length. The stressed syllables are made longer than the unstressed syllables." (Vernon Brown) たとえば, My grandfather's desk is always covered with papers. では第1強勢と第2強勢のある音節は重く・ややゆっくりと発音する。

(4) 第1強勢をもつ語, および第1強勢をもつ語を含む語群は, まとめて発音され, 1つの音声上の句 (phonological phrase) をつくる。

たとえば, It's a book. という文は, book にのみ第1強勢があり, 形の上では文であるが, 1つの phonological phrase からなる文として, まとめてひと息に発音される。また, This book will be our text. という文は, text にのみ第1強勢をおけば, 文全体が1つの phonological phrase として発音され, This book will be our text. となり, book と text にそれぞれ第1強勢をおけば, 2つの phonological phrase からなる文として, This book / will be our text. となりふた息で発音される。

(5) 1文の中で, phonological phrase を不必要に多くとらない。

1つの文に節や句がある場合, その節や句の中にそれぞれ第1強勢をもちうる語があれば, それを核に1つの phonological phrase をつくることができる。また強調や意味上などから1つの文に, 2つ以上の第1強勢をとり, その結果1つの文が2つ以上の phonological phrase をもつようになることもある。たとえば, These / are cotton. And those over there / are nylon. In sentences, / just as in words, / some syllables are stressed, / and some are not. しかし Fries も言っているように, 英語のリズムは強勢と速度からなるもの (matters of stress and speed) であり, 特に長い文は別として, まとまった一般的な文は, 1つの phonological phrase として, 一息で発音する方が正しいリズムを作り易い。例をあげる。

Are there any chairs in this room ?

His brother will study in America for a year.

I am sorry I have kept you waiting.

What do you suppose she found there ?

He said he would be ready on time

(6) phonological phrase が2つ以上ある場合, その間におく休止 (pause) は短かめにする。

2つの音声上の句の間には pause を置けるわけであるが, あまり長い pause をおくと音調が下り, glottal stop (声門閉鎖音) が入って, リズムがみだれる。たとえば, The leather is more durable / than the plastic. But plastic is quite cheap / and it's fashionable now. この2文は斜線 (/) で pause がとれるわけであるが, The leather is more durable で切ってしまうと, それから than the plastic とせずに, durable といって声の余いんが残っているうちに than the plastic と続け, speech の流れを切らないようにするのがよい。and の前の斜線の pause についても同様なことがいえる。実際の指導にあたっては, pause の数が多少おおくなるのは止むを得ないと思うが, 極端に言って pause の所で一息つくくらい長く休んでしまわないことである。

(7) 強勢をうけない語で, 弱形 (weak form) と強形 (strong form) がある場合には弱形を用いるようにする。

前に述べたように, 英語のリズムは stress-timed rhythm であり, 弱い部分は軽く, 速く発音される。軽く・速く発音される語が弱形となることは自然なことであるが, 生徒は誤って強形を使い, しかも強形を使うことによりそこに stress を置いてしまうことが多い。このような誤りは英語の綴りをそのままローマ字に近いような形にして発音するために起るのではないかと考える。

[kæn] or [kn] [kæən]
You can do it now. が You cæn dō
[hæz] or [əz] [hæz]
it now. に Cɪss hæs begʌn. が Cɪss hæs begʌn.

[ðm] or [əm] [ðem]
に, Tɛl them tɔ gɔʊ ɔ ɔ Tɛl them tɔ gɔ ɔ It's
[ðæn] or [ðn] [ðæn]
bɛtə than mi:n. , ɔ It's bɛtə than mi:n. になり
はしないだろうか。

D. Jones は弱形と強形をもつ語を61あげているが, ここではそのうちおもなものだけを品詞別にしてあげてみる。

代名詞 (me, we, us, you, your, he, his, him, she, her, them, who), 動詞・助動詞 (be, am, are, is, was, were, been, have, has, had, do, does, can, could, shall, should, will, would, must), 前置詞 (at, for, from, of, to, upon), 接続詞 (and, as, but, or, nor, than, that), その他 (an, the, some, there, not)

これらの弱形の母音はその綴りにかかわらずなく, 一般に [ə], [i], [ə] などに変化して発音される。強勢のない部分を軽く・速く発音する練習は, 正しいリズムを身につけるために大切なことであり, また native speaker が普通の速さで話すことを理解するためにも役に立つ。